

パンジーメディア作品

大空へ はばたこう

～自立への挑戦～

取材をすすめる中で、
入所施設はなくすべきだと
強く思いました。
「ぼくたちは、一人の人間として
地域で自分らしく生きる」



同じ知的障害のある仲間にも、
入所施設から出て自由に生きてほしい。

知的障害者が自立を実現するためにはどうすればいいのか？

障害をもつ当事者自身が取材を行い、生のメッセージと想いを届けます。



「ぼくたちは、一人の人間として地域で自分らしく生きる」

今回、ぼくは入所施設、知的障害者の保護者、大学の先生などを取材しました。初めてのインタビューで少しきんちょうしたけれど、すごくいい体験をしました。入所施設がどうできたのか。スウェーデンやカナダはどうだったのか。日本の入所施設の今は…。これまで知らなかったことをいっぱい聞きました。また、津久井やまゆり園から出て、地域でくらししているなかまの姿を見て、うれしくなりました。

取材をすすめる中で、知的障害者にとって入所施設はひつようなのだろうか。入所施設はなくすべきだと強く思いました。

「ぼくたちは、一人の人間として地域で自分らしく生きる」

ぼくは今、地域で自由にくらしています。同じ知的障害のある仲間にも、入所施設から出て自由に生きてほしい。入所施設をなくすためにどうすればいいのかを考えていきます。また、社会から「さべつとへんけん」がなくなるように、これからも声を上げつづけていきます。

取材：山田 浩（知的障害当事者）

「大空へはばたこう～自立への挑戦～」を制作して

この企画が動き始めたのは、2021年11月でした。テーマは「入所施設は必要なのか?」。この問いに、これまで多くの専門家や福祉関係者、マスコミが様々な意見を言ってきました。しかし、そこには、知的障害当事者の声は、ほとんどありませんでした。この企画で大切にしたのは知的障害者が実際に取材し、そこで感じた生の声を伝えることです。

この1年、取材を通して見えてきたのは、入所施設が存在そのものが問題なのだと。多くの入所者が集団でくらすなかで、支援する人たちが優先するのは効率。それは、知的障害者を一人の人間としてみていないことにもつながります。そこにはノーマライゼーションの考え方ありませんでした。そして、多くの当事者が入所施設を出た後も心の傷に苦しんでいました。

すべての知的障害者が「大空へはばたき」、自分らしくくらしを実現する。それは入所施設を出ることです。しかし、これは最初の一步にすぎません。

監督：小川道幸



- 第1章 入所施設がなぜ作られたのか
- 第2章 入所施設の中で何が起きていたのか
- 第3章 入所施設、世界では…
- 第4章 入所施設から地域へ
- 第5章 入所施設に入らない選択
- 第6章 入所施設のない社会へ

収録 105分

取材：山田 浩 ナレーション：前岡莉乃 監督：小川道幸

プロデューサー：山田 浩 / 辰己正一 / 林 淑美

協力：久保厚子 / 鈴木 良 / 大黒哲史 / 高山和彦 / 池下沙佑里 / 林 淑美

アンデシュ・ベルグストン / ロバート・マーチン / 全国手をつなぐ育成会連合会

大阪府立砂川厚生福祉センター / 社会福祉法人同愛会 / グルンデン協会 / 社会福祉法人創思苑

制作・著作：パンジーメディア

定価：¥3,500(税込) ライブラリー価格：¥30,000(税込) 発売・販売元：パンジーメディア



自主上映会の開催・作品についてのお問い合わせはこちらまで

パンジーメディア
大阪府東大阪市中新開 2-10-16
〒578-0911

Tel 072-968-7151 (平日 9:00~17:00)

E-mail pansymedia@pansy-net.or.jp

Web https://www.pansymedia.com

パンジーメディア

検索

スマホサイトは
コチラから

